

10月2日(金曜日)「イエスはだれと」

【新改訳 2017】

ルカ 9.18-27

「イエスは、彼らに言われた。『では、あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。』ペテロが答えて言った。『神のキリストです。』」(20節)

ルカの福音書の記録にも、いよいよ弟子たちの信仰の実質が問われていく段階に入っています。そして、それはまた私たちの信仰の実質も問われる内容であることに気づかされます。

ペテロの告白は、マタイによれば「あなたは、生ける神の御子キリストです」となっています。他の人々は、ヨハネだとか昔の預言者の一人だとか言いました。ペテロの告白は父なる神から与えられたものでしたが、彼はまだ、「主のしもべ」としてのキリストを理解するには至っておらず、政治的なメシア像のレベルだったようです。

今日私たちがイエス・キリストを信じるという時、どこまでの信仰なのでしょう。主は私たちのためにご自身を十字架刑で犠牲にしてくださって死なれ、そして、復活された救い主で

ある、というところまで信じているでしょうか。

～祈り～

主よ。どうか、あなたを、生ける神の御子キリスト、十字架上で犠牲となられた受難のしもべ、死からよみがえられた勝利の主と信じる信仰であらせてください。

【学びのために】

ペテロの偉大な信仰告白は、神から与えられたものでしたが、まだ、十分な意味では身についたものではなかったようです。よく知られるように、その後イエスを3度否定しました。聖霊によって与えられた信仰や知恵でも、真の意味でその人のものになるのには時間がかかることがあるのです。